



キャベツ編

病害虫注意報 2021年7月号



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

育苗期～定植前おすすめ防除

この時期の防除は、残効の長い粒剤や灌注剤を用いての省力化がおすすめです

プリンス粒剤

コガ・ハイマダラノメイガ
20～30g/セル成型育苗トレイ1箱
またはペーパーポット1冊上から均一に散布
は種時～定植前/1回



プレバソフロアブル5

育苗期後半～定植当日/1回
ヨトウムシ・カブラハバチ 100倍 灌注
ネキリムシ類 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱
またはペーパーポット1冊
ウバ類 500倍 灌注 苗地床 2L/m²

コガ・ハイマダラノメイガ
アオムシ・ハスモンヨウ 上記両方登録あり



ミネクトデュオ粒剤

1g/株
アブラムシ類・コガ 定植時株元散布 1回
アザミウマ類・アオムシ 40g/セル成型育苗トレイ1箱
ハイマダラノメイガ またはペーパーポット1冊
は種覆土後～育苗期後半 1回
ハイマダラノメイガ 20g/セル成型育苗トレイ1箱
コガ またはペーパーポット1冊
は種時 1回



注意

ミネクトデュオ粒剤を使用した場合、
下記の薬剤は苗場での使用ができません!!

- ・ベリマークSC
- ・ベネビアOD
- ・アクタラ粒剤5
- ・ジュリボフロアブル
- ・プリロツツ粒剤
- ・アベイル粒剤
- ・アクタラ顆粒水溶剤

コナガなどのチョウ目害虫や
アブラムシ類に効果の高い
ミネクトデュオ粒剤の処理が
おすすめです ※弊社試験結果より



灌注処理剤の上手な使い方

- ・灌注処理は定植3～5日前が最適です
- ・定植数日前に処理して、十分に成分を吸わせることで高い効果を発揮します

粒剤処理2週間前後、または害虫発生時は、適宜散布剤による防除を行ってください

薬剤名	希釈倍数	使用時期	回数
フローバックDF	1,000～2,000倍	前日(発生初期)	-
スピノエース顆粒水和剤	2,500～5,000倍	3日前	3回
アフーム乳剤	1,000～2,000倍	前日	3回
エルサン乳剤	1,000～2,000倍	14日前	2回

長雨による黒腐病対策に!

オリゼメート粒剤

- ▶ 植物の病害抵抗性を誘導
- ▶ 持続性に優れた効果

6～9kg/10a/定植前/1回
定植時全面・作条土壌混和



マグマSi

吸収性の高い
水溶性ケイ酸資材

- ①細胞壁の強化
- ②高温・低温への抵抗性
- ③耐病性の向上
- ④成長促進・抑制のコントロール

(葉面散布) 育苗期2,000～5,000倍 (春夏)
成長期5,000～10,000倍
(土壌灌水) 原液100～200ml / 反



リン酸吸収補助資材

白酢

- ・発根を促進し、根張りが向上
- ・リン酸の吸収により徒長抑制

POINT

育苗期・結球期の
散布がお勧め!

灌注時: 100～300倍
散布時: 300～1,000倍



※強酸性のため100倍以下にならないように注意